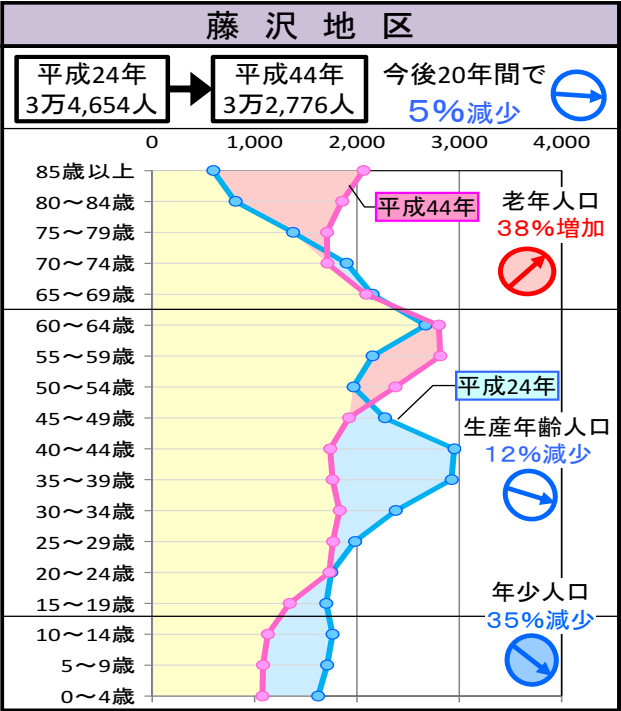


藤沢第 1 地区の概要

【人口動向】



【公共施設の配置状況】

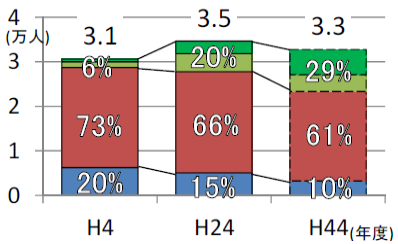
施設の種類		施設名
地域対応施設	公民館	藤沢公民館、藤の台公民館
	小学校	藤沢小学校、藤沢北小学校
	中学校	藤沢中学校
	保育所	藤沢第二保育所
	学童保育室	藤沢学童保育室 藤沢北学童保育室
	地区体育館	藤沢地区体育館
広域対応施設		健康福祉センター

【公共施設の現状と課題】

- 藤の台公民館は、建物としては築 30 年以上経過しており老朽化していることから、今後計画的な改修を行う必要があります。また、稼働率は藤沢公民館が 50%、藤の台公民館が 27%となっています。
- 藤沢公民館は、支所や図書館を併設した施設であるためトータルコストが市で最も高い施設となっていますが、利用が多く、複合化による効果が見受けられます。
- 地区内の学校施設の全てが築 30 年を経過し老朽化しており、計画的な改修を行う必要があります。
- 児童・生徒数については、ピーク時（藤沢小：24 学級 875 人）（藤沢北小：24 学級 922 人）（藤沢中：22 学級 899 人）と比較して、6～7 割程度となっています。
- 学校は、施設の老朽化の対応と共に児童生徒数の推移を考慮して施設の再整備が必要です。
- 藤沢第二保育所は築 16 年が経過しており、今後十数年で改修が必要です。平成 28 年度は、定員に対して 83%（定員 120 人/入所 99 人）の入所率となっており、比較的高い状況です。
- 藤沢地区体育館は、築 30 年を経過し老朽化しており、計画的な改修を行う必要があります。

【人口動向の特徴】

- 藤沢地区は、高齢者人口は約 38%の増加予測となっており、高齢者人口が市内で 2 番目に多くそのうちの 60%（約 5,600 人）が後期高齢者となっています。
- 地区内 3 校の小学校では H16～H26 の 10 年間で、藤沢南小は 156 人増加、藤沢東小は 42 人増加。一方、藤沢小は 164 人減少と同地区内の増減に大きな差が生じています。



	平成 24 年(比率)	平成 44 年(比率)
老年人口	6,829 人(20%)	9,421 人(29%)
生産年齢人口	22,738 人(66%)	20,070 人(61%)
年少人口	5,087 人(15%)	3,285 人(10%)

【施設配置の特徴】

- 豊岡地区の次に施設面積が多く、主なものは学校施設となります。小、中学校はいずれも築 30 年以上経過しており、老朽化が進行しています。
- 主な広域対応施設は、健康福祉センターの 1 施設で、その他の施設は地区対応施設となっており、地区の特性や将来の需要予想を見据えての施設の有効活用を視野に入れた検討が必要です。

【地区の成り立ちと現状、将来の見通し】

【地区全体】

- この地区は、武蔵藤沢駅を中心に、昭和 30 年代以降の大規模宅地開発や、都心への通勤通学の利便性の良さによる近年の大型集合住宅や大規模店舗の建設により、人口が急増した地区です。
- 近年、大規模な区画整理事業が行われ人口が増加しましたが、今後 20 年間では減少に転じることが見込まれます。この地区は、生産年齢人口と年少人口の減少率が比較的緩やかとなっており、現在は高齢化率も市内では最も低い地区です。しかし、今後 20 年間では老年人口は約 38%増加し、高齢者数の増加は、市内でも豊岡地区に次いで多くなる予測です。

【藤沢第 1 地区】

- 地形的には、南部と北部でやや高低差がありますが、地区全体を通しておおむね平坦地です。
- 地区の南部が所沢市、東部が狭山市と接しています。
- この地区には武蔵藤沢駅があり、この駅と入間市駅を結ぶ路線バスが運行されており、入間市駅及び武蔵藤沢駅からの路線バスにより、市内全域の各公共施設にアクセスしています。
- 地区としては、一部に商業施設が立ち並ぶとともに、工場や住宅（共同住宅を含む）が立ち並んでいます。一方、地区の西部は市街化調整区域で、農地がひろがっています。

【施設配置図】



【公民館の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
藤沢公民館	2,083.48 ㎡	平成 12 年	17 年	RC 造	市
藤の台公民館	728.08 ㎡	昭和 61 年	31 年	RC 造	市

- ・藤の台公民館は建設から 30 年経っており、計画的な修繕対策の検討が必要となっています。
- ・藤沢公民館は支所と図書館分館との複合施設になっているため、施設面積が大きくなっています。

②利用状況

	利用件数	利用者数	稼働率	住民 1 人当たりの年間利用回数	トータルコスト
藤沢公民館	6,012 件	90,718 人	50%	3.6 回	5,505 万円
藤の台公民館	2,443 件	25,706 人	27%	4.7 回	3,409 万円

- ・利用者数については、藤沢公民館は、全公民館の平均利用者数の 39,793 人を上回っていますが、藤の台公民館は、下回っています。
- ・藤沢公民館は、全公民館の平均稼働率 34%を上回っていますが、藤の台公民館は下回っています。
- ・住民 1 人当たりの年間利用回数を見ると、藤沢公民館は全公民館の平均利用回数の 3.6 回と同値ですが、藤の台公民館は上回っています。
- ・トータルコストについては、全公民館の平均額が 4,069 万円であるため、藤沢公民館は上回っていますが、藤の台公民館は下回っています。

【小中学校の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
藤沢小学校	6,546.00 ㎡	昭和 40 年	52 年	RC 造	市
藤沢北小学校	5,796.00 ㎡	昭和 53 年	39 年	RC 造	市
藤沢中学校	6,890.00 ㎡	昭和 39 年	53 年	RC 造	市

- ・藤沢小学校と藤沢中学校は、築 50 年超と老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要になっています。

②利用状況（各年 5 月 1 日現在）

	平成 24 年度 児童生徒数	平成 24 年度 学級数	平成 29 年度 児童生徒数	平成 29 年度 学級数	児童生徒数 増減率
藤沢小学校	576 人	25 学級	477 人	18 学級	－17%
藤沢北小学校	648 人	19 学級	683 人	20 学級	＋5%
藤沢中学校	600 人	18 学級	606 人	19 学級	＋1%

- ・児童生徒数については、5 年前と比較すると、藤沢北小学校と藤沢中学校は、若干増加していますが、藤沢小学校は 17%と大きく減少しています。
- ・藤沢中学校は 5～6 学級となっており、市内の中学校の中では最大規模の学校となっています。

【保育所の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
藤沢第二保育所	1,007.25 ㎡	平成 13 年	16 年	RC 造	市

- ・建設してから 16 年が経過しており、計画的な修繕対策の検討が必要になっています。

②利用状況

	定員	平成 24 年度 入所児童数	平成 29 年度 入所児童数	減少率
藤沢第二保育所	120 人	130 人	99 人	23%

- ・入所児童数は、5 年前と比較すると、23%と大きく減少しています。
- ・入所児童数は、過去 5 年間で徐々に減少しており、社会全体で待機児童の問題が発生していることを考慮すると、運営形態等が市民ニーズに合っていない可能性があります。

《藤沢第 1 地区の検討課題》

- ・小学校については、市街化が進んでいる地域であり、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存施設を活用することを前提とします。
- ・学童保育室については、小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合を検討する必要があります。
- ・中学校については、市街化が進んでいる地域であり、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存施設を活用することを前提とします。
- ・保育所については、施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は既存施設を活用することを前提とします
- ・健康福祉センターについては、今後も存続することを前提としていることから、会議室などの機能を、地区の西側の住民が利用できるよう施設利用の自由度を広げる必要があります。
- ・公民館の統合に伴い、地区センターに移行しない公民館の有効活用を図るとともに、廃止となる公民館の登録団体の活動が継続できるよう配慮する必要があります。
- ・藤沢第 1 地区には上藤沢中学校と藤沢南小学校も含まれますが、地域バランスを考慮して、藤沢第 2 地区の施設として取り扱うこととします。

※各施設のデータは原則として「公共施設マネジメント白書」から引用